



2024・夏期講座

「現代用語の基礎知識」執筆者による

日本の 学問最前線

【日時】 8月19日(月)～8月23日(金)17:30～20:45

【対象】 高3生・高卒生・大学生

【受講料】 40,000円(初めて授業を受ける方は、受講料の他に入会金10,000円。大学生割引あり)

【会場】日曜講座教室 【申込】メールまたはお電話でお願いします。

受講生の声

5日間で、こんなに読めるのか?!という分量でしたが、先生や受講生との対話が本当に楽しく刺激的だったので、乗り越えることができました。おかげで今の私があります。過酷であるのは確かですが、最もお勧めの講座です (Nさん)

配布されたテキストのレベルの高さと予習の大変さに驚きましたが、大学生とのディスカッションなど今までに体験したことのない講義の連続で、ものすごく頭を使った5日間でした。(Sさん)

夏休み、最も刺激的な5日間でした。本と真剣に向き合い、他の人に伝えるようにまとめ、発表し、他の人や先生とのやり取りで理解を深め…。これこそ私がやりたかった学びだ!と興奮しました (Mさん)

ICUとSFCに「ダブル合格」できたのは、この講座で「頭を使うとはどういうことなのか」「読解するとはどういうことなのか」を体験し、2学期以降の勉強に活かせたからだと思う。(Fさん)



発見する喜び、考える楽しさを味わうなら

大学受験日曜講座

渋谷区代々木 2-6-8 中島第一ビル3F

☎ 0120-777-169 ✉ goukaku@nichiyō-kouza.com





日本の学問最前線



学問の最前線を知ること 世界を理解する力を鍛え、善く生きる

この講座の目的とは、単にせせこましく知識や情報を詰め込む『お勉強』などではなく、わたしたちの世界にある知識や情報がなぜ重要なのか、なぜわたしたちは考えるのか、と素朴に『知との出会い』を経験してもらうことです。いうならば、ごく一握りの大学や大学院でのもっともスリリングな類のゼミや講義を先取りして体験する機会であります。



それは、ただ事物を暗記して中途半端な物知りになって、その結果として知に振り回されて何もできやしくなるのではなくして、ものごとの考え方や勉強によって学んだ知識を実際の日常生活のなかで使ってみることを学ぶものであり、単なる暗記力や論理的な思考に留まるものではありません。



本当によく学びよく考えた者は、よく教えることもでき、またよく行えるはずです。抽象的な概念の操作や議論、人前で語ることに慣れ、他者を理解すること、勉強したことを日々の生活のなかで自分の生き方に活かすことこそ、学問の醍醐味です。でも残念ながら、日本の教育において中学高校どころか、不名誉なことにほとんどの大学や大学院でも行われているわけではありません。この『日本の学問最前線』では、それをやってみようというのです。



授業は、大学や大学院で学ぶことを先取りするようナリベラルアーツの講義やゼミに関連したテキストを丁寧に講読し議論するという形式で進めます。哲学、法学・政治学、社会学、国際関係論といった人文・社会科学の基礎から学びます。



それでは、皆さん、教室にてお目にかかるのを楽しみにしています。

これまでに、こんな書籍を読んできました。

『危機の二十年』	E.H. カー
『正義への責任』	アイリス・マリオン・ヤング
『正義と差異の政治』	アイリス・マリオン・ヤング
『クリティック再建のために』	木庭顕
『誰のために法は生まれた』	木庭顕
『超国家主義の論理と心理』	丸山眞男
『現代政治の思想と行動』	丸山眞男
『宗教と権力の政治』	佐々木剛
『国家』	プラトン
『ゾミア』	ジェームズ・C. スコット

『人間の条件』	ハンナ・アレント
『責任と判断』	ハンナ・アレント
『政治の約束』	ハンナ・アレント
『ベンヤミンコレクション① 近代の意味』	ヴァルター・ベンヤミン
『猿と女とサイボーグ』	ダナ・ハラウェイ
『ヴァルター・ベンヤミン』	柿木伸之
『不平等を考える』	斎藤純一
『狂気について』	渡辺一夫
『よみがえる古代思想』	佐々木剛
『国家に抗する社会』	ピエール・クラストル



昨年度受講生のICU合格率80%!
講座で扱ったハンナ・アレントがICUで、
E.H.カー『危機の20年』が上智大で出題されました。